

華麗なテクニックと艶やかな美音



©岩切等

IWATE
KENMIN KAikan
CONCERT
SALON
2011

ヴァイオリン・リサイタル
ピアノ・白石光隆

吉田恭子

Kyoko Yoshida
Violin Recital

Program

- | | |
|---------|--------------------------|
| モーツアルト | ヴァイオリンソナタ 第35番 ト長調 K.379 |
| ブラームス | ヴァイオリンソナタ 第3番 二短調 Op.108 |
| タルティーニ | 悪魔のトリル ト短調 |
| ワックスマン | オペラ「トリスタンとイゾルデ幻想曲」 |
| サン=サーンス | 序奏とロンド・カブリチオーソ Op.28 |

曲目は都合により変更の可能性がございます

2011年 9月13日 火
岩手県民会館 中ホール 18:30開演

入場料 一般:5,000円 小中高生:2,500円

※団体(10名以上)の取扱いがあります(県民会館のみ取り扱い)

※未就学児のご入場はご遠慮願います

■主催/岩手県文化振興事業団 IBC岩手放送

■後援/岩手県・岩手県教育委員会・盛岡市・盛岡市教育委員会・岩手県芸術文化協会・岩手日報社

■プレイガイド/〈盛岡市〉県民会館・アネックスカワトク・カワトク
ジョイス盛岡東安庭店・フェザン・プラザおでって
盛岡市民文化ホール・いわて生協(県内各店)

■お問い合わせ/県民会館事業課 TEL.019-624-1173
IBC岩手放送事業部 TEL.019-623-3137



ほりおこそう
心の豊かさ
伝えよう未来へ
岩手の文化

Profile プロフィール



吉田 恭子 [ヴァイオリン] Kyoko Yoshida 《Violin》

東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部を卒業後、文化庁芸術家海外派遣研修生として、英国ギルドホール音楽院、さらに米国マンハッタン音楽院へ留学。巨匠アーロン・ロザンドに師事。世界各国の音楽祭に参加。ニューヨークを拠点に多岐にわたる演奏活動を行い、数々の賞を受賞。「研ぎ澄まされた感性や情感を楽器を通して偽りなく表現できるヴァイオリニスト」と絶賛される。

2001年、コロムビアミュージックエンタテインメントより2枚同時発売によるCDデビュー。また2002年「メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲&ツィゴイネルワイゼン」、2004年「ノスタルジア」、2006年「祈り～Preghiera」、2007年「PASSION～華麗なるボロネーズ」をワーナーミュージック・ジャパンよりリリース。「このゆかしい余情を湛えて響く音色は、それ自体が貴重なものだ」と音楽専門誌にて高く評価された。2008年にアルバム「グランド・ワルツ」を、また2009年9月には通算8作目となるアルバム「チャイコフスキイ：ヴァイオリン協奏曲&瞑想曲集」をヤマハエーアンドアールよりリリース。

これまでにアーロン・ロザンド、江藤俊哉、滝沢達也各氏に師事。全国各地でリサイタルを行う他、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者が中心となるオーケストラ「マスター・プレイヤーズ・ウィーン」等と共に演し、指揮者、共演者からも厚い信頼を寄せられている。

雑誌や新聞、テレビやラジオ等メディアの出演も大変多く、最近ではNHK「つながるテレビ@ヒューマン」、NHK「カラヤン生誕100年記念・11時間特別番組」、テレビ朝日「題名のない音楽会21」「徹子の部屋」、テレビ東京「みゅーじん／音遊人」、テレビ東京「たけしの誰でもピカソ」等、番組パーソナリティやコメンテーターとして出演。またNHK「地球ウォーカー」ではテーマ曲を担当、G8北海道洞爺湖サミットでは環境庁エコピニオンとして登場し、様々な活動で広く親しまれている。

その他、映像とのコラボレーションによる「いわさきちひろと吉田恭子の世界」、日本ユニセフ協会「オードリー・ヘップバーン子供基金コンサート」、環境雑誌「ソトコト」等の活動を通じ、子供達と自然・エコロジー・音楽・チャリティーに対する積極的な取り組みを行っており反響を呼んでいる。2003年から、地域社会の活性化と福祉の精神を目的に、全国の小中学生等をクラシックの世界へ道案内する巡回教育プログラム「ふれあいコンサート」シリーズをスタートさせ、これまでに約300公演、7万人以上が参加している。積極的な活動と功績が認められ、平成20年度「関西経済と心の会・奨励賞」を受賞。

[オフィシャル・ホームページ：<http://www.kyokoyoshida.com>]



白石 光隆 [ピアノ] Mitsutaka Shiraishi 《Piano》

1989年に東京藝術大学大学院を修了後、ジュリアード音楽院へ進む。

1990年ジーナ・バッカウアー国際奨学金コンクール入賞。

1991年学内におけるコンチェルト・コンペティションで優勝し、リンカーンセンター内アリストリーホールでジュリアード・オーケストラとラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」を協演。鋭い感性とパワー溢れる行動力で、アメリカ留学中も幅広く活躍。帰国後は音楽にさらなる深みが増し、ソロ、室内楽、協奏曲等、そのステージは決して期待を裏切らないクオリティーの高いものとして定評がある。

1994年第63回日本音楽コンクール声楽部門において、優れた日本歌曲の演奏に贈られる木下賞(共演)受賞。レパートリーも広く、邦人、現代作品の分野でも評価が高く、ジャズへのアプローチも積極的に行なっている。

吉松隆、長生淳らの作品を入れたCD『レグルス回路』は山野楽器1998年度アカデミー賞(現代曲部門)を受賞、またベートーヴェン作品109と、これに触発された矢代秋雄作品を主軸とした『109』、『大指揮者のピアノ曲』、『作曲家ムラヴィンスキイ』他、いずれも好評である。キングインターナショナルとのベートーヴェン・ピアノソナタシリーズの収録を開始し、2006年8月に3大ソナタを収めたアルバム第1弾を、2007年9月には第2弾をリリース。2009年8月に発表した『ピアノによるルロイ・アンダーソン』はアンダーソン遺族より賞讃を受ける。また、2007年2月にリリースした『成田為三ピアノ曲全集』(世界初録音)は平成19年度(第62回)文化庁芸術祭レコード部門優秀賞を受賞し、各方面から高い評価を得る。

毎年東京で開催しているリサイタルでも、意欲的なプログラミングはもとより、近年は透明感ある音に奥行きと厚みが加わり、圧倒的なリズム感と、生き生きと説得力ある演奏スタイルで、回を重ねるごとにファンを増やしている。

次代を担う実力派であると同時に、柔軟な思考回路を持った豊かな人間性。ピアニストで音楽人。白石光隆の宇宙は際限ない。

ピアノを金澤桂子、高良芳枝、故伊達純、小林仁、マーティン・キャニンの各氏に、室内楽をフェリックス・ガリミア、伴奏法をジョナサン・フェルドマンの各氏に師事。現在、東京藝術大学ピアノ科及びお茶の水女子大学文教育学部非常勤講師。

ヴァイオリン・リサイタル
吉田 恭子
Kyoko Yoshida
Violin Recital